会長就任のご挨拶

新たに発足する国際経営学会（別府大学）の目指すべき方向と役割について申し述べ、ご賛同いただける方々のご参加をお願いしたいと思います。

明治維新以来の日本企業の歩みには目を見張るものがあります。経済成長の牽引役を果たしてきました。さらには近年においては、多くの日本の企業は国際的な結びつきを急速に高めています。これらの企業は世界先進諸国や東アジア諸国、台頭する新興国の企業との貿易、投資面での結びつきを急速に拡大させてきています。これらの国際的企業は大企業だけに限られたものでなく、地域に根ざした中小企業も同様であります。しかし、米国の企業不祥事や金融危機に端を発した世界同時不況の影響を受け、国際経営を取り巻く環境は大きく変わろうとしています。それに伴い、多くの課題が明らかになってきたことも事実です。これからは、新興国を含めた地域住民サービスや、地元の利用者の利便性を増し、地域のニーズに適応した新しい付加価値を提供する、尊敬され感謝される国際ビジネスを展開していくことが課題となっていくと思われます。

これから期待される国際経営は、市場制覇のための事業展開の方法論として捉えるのではなく、社会に貢献する経営システムであると捉える広い視野が必要になります。経営学者だけでなく、法学、社会学、心理学、公共などの学問分野を超えた研究者、実務家、経営者にも参画いただき、社会的責任を持つ国際経営のあり方や実現方法を議論する場が必要であると考え、国際経営学会の設立を準備してきました。特に、多忙な日々を送っている方々こそ、こうした場に積極的にご参加いただき、不断の研究心を養っていただくと共に、他分野の人々との交流を通して清栄いただくことを期待いたします。

社会的責任を持つ国際経営を実現していくためには、特に次の３点が重要であると考え、学会活動の主要なテーマとしたいと思います。

第一は、国際経営人材の育成です。国際的なビジネスを企画し、設計し、実践できる国際経営人材は絶対数が不足しています。国際経営人材には、豊かな発想力、戦略的思考、問題発見・解決力、リスク感覚、コミュニケーション力などの様々な能力やセンスが要求されます。国際社会での発言力強化を目指す日本にとっては、国際経営人材の増強は急がなければならない課題だと思います。当学会は、こうした問題の提起と改善について調査研究を行い、シンポジウムを開催・公開し、社会に提言していきたいと思います。

第二は、実務家と研究者の交流です。国際経営の研究は、国際的ビジネスの構築・運用の実務と切り離して考えることは出来ません。国際ビジネスの経験は、事例研究として公開し、一般化し、理論付けられ、体系化され、再利用されていくのが理想です。そこで実務家と研究者が意見交換し、共同研究する場が必要になってきます。若者にも、蓄積されたものを伝承していく機会や、研究発表する機会をつくる必要があると考えています。

第三は、これからの国際経営のあり方の追求です。日本の貿易依存度および日本企業の海外との国際貿易・直接投資は極めて高い水準に達しています。国際的企業は資本，技術移転を促進しつつ、日本の経済成長と企業経営改革の促進要因となっているだけでなく、東アジア地域の貿易・産業の発展と構造再編を促進しつつあります。しかし，他方で企業統治に対する責任意識の薄さのために、経営者のモラルハザードや経営責任などを求める経営メカニズムと経営者に対するコントロール機構の構築にはまだ大きな課題をかかえています。これからは、社会、企業、利用者が共に満足する国際経営の位置付けを正しく評価・認識し、社会的存在としての国際企業に求められる国際経営のあり方を追求していく必要があります。そうした国際ビジネスを経営する経営者のモラルや社会の豊かさに貢献する国際ビジネスのあり方についても、議論することが重要だと思います。

多くの方々に当学会へご参加いただいて、社会や業界、さらには個人生活にも貢献できるように学会を充実させていきたいと思います。ご賛同いただける方々のご参加を心から期待しております。

2010年３月

国際経営学会（別府大学）会長
安　藤　茂　樹